

上野焼

あがの

題字 IKKO

奇跡のスペシャル対談 / 浪漫陶郷

福智町の新しい観光パンフレットの巻頭では、
上野焼と縁ある遠州流の茶道家・小堀宗翔さんと
美容家・IKKOさんとの特別対談が実現しました。
400年以上の間、福智山麓で洗練の歴史を紡いできた
遠州七窯の一つと伝わる「上野焼」の魅力に迫りました。



小堀遠州ゆかりの上野焼 美と陶郷に想い馳せ

大名茶人の小堀遠州を流祖とする遠州流の茶道家・小堀宗翔さんと、遠州ゆかりの茶器の産地「遠州七窯」の一つとされる上野焼の里・福智町出身の美容家・IKKOさんの対談が昨年11月に「はせがわ銀座本店」の「平成黄金の茶室」で行われました。この日、茶道具一式から床の間の掛け軸や花まですべて小堀さんが厳選。細部に至るまで調和がとられた空間でIKKOさんは、小堀さんのお点前をいただきながら、古上野や日本の総合芸術といわれる茶道の奥深さを体感。小堀さんと美意識を共有しながら、遠い故郷へと思いを馳せる時間が流れました。



葉子はIKKOさんをイメージして小堀さんが特注した生菓子

美容家 IKKO

1962年福岡県田川郡福智町生まれ。19歳で上京して美容師となり、その後独立し、一流雑誌の表紙で女優のヘア&メイクアップを担当。美容家、ビューティーディレクター、タレントそして書家としてマルチに活躍。著書に「女の法則」「脱コンプレックス」(ともに世界文化社刊)など。昨年末に料理本「IKKOのやみつきレシピ」(新星出版)を出版。



「感覚として素直に素敵と思えるものが好きです。上野焼の侘びた美しさは魅力的」

茶道家 小堀宗翔

1989年生まれ。遠州茶道家(えんしゅうさどうそうけ)13世家元・小堀宗実氏の次女、小堀優子。学習院大学卒業後、父の内弟子として茶の湯の道にすすむ。元ラクロス日本代表。現在は社会人クラブチーム「MISTRAL」に所属。自身の経験を生かし「茶道」と「スポーツ」の融合をテーマに幅広く活動中。アスリート茶人、若手女性茶道家として各界より注目を浴びている。



「日常茶飯事というように本来お茶は身近な存在。使ってこそ真のよさがわかります」



「平成黄金の茶室」は、遠州流茶道・小堀宗実家元による設計。掛け軸には宗実家元の書「明珠在掌」。「本当の宝は自分の中にある」という意味。

大名茶人・小堀遠州と上野焼

千利休や古田織部と続いた茶の湯の本流を受け継ぎ、近江小室藩主で江戸初期に活躍した大名茶人・小堀遠州は、徳川将軍家の茶道指南役となり、王朝文化の理念と茶道を結びつけた「綺麗さび」の茶風を創り上げました。茶の湯だけでなく書や和歌にも優れた遠州。天賦の才で美を追究し、福智山麓で生み出される茶陶にも多大な影響を与えました。上野焼もまた、遠州が好んだといわれる「遠州七窯」の一つとして、今に伝えられています。



画像▶ 遠州流茶道家所蔵

遠州流宗家に受け継がれゆく上野焼の至宝



今回の対談では、大変貴重な遠州流宗家に伝わる上野焼の茶器5点を小堀宗翔さんにご紹介いただきました。今回はその内、3点をご紹介します。残り2点は、ぜひ福智町の新・観光パンフレットでご確認ください。



上野茶碗 銘 鹿の音

桃山から江戸前期に作られたと考えられる大胆な「割高台」が印象的な銘「鹿の音」の茶碗。箱書きの裏には、遠州の次男・小堀権十郎が書かせたといわれる清原元輔の秋の歌が金字で添えられています。



上野 一重口水指

鉄釉に灰かぶりの景色が力強い水指。箱書きは「遠州 上野 一重口水指」「遠州好みの窯にして 水指はまれなり」とあることから、上野焼に注文して作らせたことがうかがえる貴重な水指の逸品です。



薩摩風 絵付茶碗

作振りや釉肌が玉子のようにまるやかな趣きをもつ「玉子手」の器に、上野焼では珍しい薩摩風の絵付けがなされた茶碗。潤いを感じる釉肌の温かみが、白さを極める薩摩焼のそれとは一線を画しています。